

斬新な美術作品楽しんで

札幌道内ゆかりの作家展

新制作協会

美術団体「新制作協会」（東京）の会員有志らによる作品展「新制作 北海道ゆかりの作家たち展」が、札幌市中央区宮の森4の12の本郷新記念札幌彫刻美術館で開かれている。彫刻や油彩画など多彩な作品が来場者の目を楽しませている。

（田口谷優子）

同会は1936年（昭和11年）に新制作派協会として発足。彫刻、絵画、建築（現在はスペースデザイン）の3部門からなり、創立期の会員には札幌出身の本郷新氏らがいた。

今回の作品展には、北海道出身の会員ら19人が26点を出品した。

会場には、縦3尺6寸、横9寸の木板の両端をノミで刻んで「水面」を連想させる作品や、高さ1尺7寸のステンレスの板を組み合わせ、バーナーで焼き色を付けて「ドバイの街並み」を表現したオブジェ「群青のラブソディー」などが展

オブジェ「群青のラブソディー」（手前）をはじめ、個性あふれる作品が並ぶ会場

示されている。

出品者で札幌在住の彫刻作家秋谷祐子さん（64）は「斬新な世界を楽しんで」と話す。

無料。25日までの午前10時半～午後5時（最終日は午後4時）。